

2023年度(令和5年度)ああるレインボーDuo谷塚駅前教室

【児童発達支援】事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年3月1日

事業所名 ああるレインボーDuo谷塚駅前教室

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8				
	2 職員の配置数は適切である	7		1	・利用人数や児童の課題に合わせて、個別で付けるように配置人数を調整している。	午前グループは3名以上は職員を配置するようにして、集団活動でも個々でも支援ができるよう努めている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8			・活動スペースに余計なものを置き過ぎないようにして、必要に応じて出している。 ・それぞれのマークを決めて、朝の支度などの時に、子ども自身が分かるように工夫している。	活動に必要な物は、その都度用意するようにして、活動に集中できる環境作りをしている。活動部屋はフラットになっているが、玄関とトイレには段差がある。玄関の段差は幼児が靴を履くのに度良い段差となっている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		1	朝の送迎前に、室内の掃除を必ず行っている。	毎日事業所内の掃除と使ったオモチャなどの消毒も怠っていない。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		1		半年ごとに目標を決めて振り返り・評価を行っている。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8				年度末にアンケートを行い、評価を集計しスタッフにも共有し業務改善に繋げている。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		2		年度末にアンケートを実施し、評価を集計後ホームページで公開している。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5		3		第三者による外部評価について、情報がまだ不十分なところがあるので改善していきたい。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8			草加市・足立区で行っている研修の情報を事務所に掲示しており、誰でも参加できるようになっている。	草加市・足立区で行われる研修会を事務所に掲示して、興味のある物に参加できるようにしている。
適切な 支援の 提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8			・半年ごとに面談を実施し、ニーズの確認をしている。 ・面談内容は職員全員で共有して、ニーズや課題を全員で把握できるようにしている。	半年ごとの面談を行い、児童の成長や保護者様のニーズを確認して支援計画を作成している。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		1		Duoの共通アセスメントシートを使用している。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8				必要な項目の支援目標を立てて、その目標に向けて支援内容を具体的に設定している。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8			・会議で職員全体で話し合い、支援の方向を同じにしている。 ・振り返りシートにそれぞれの計画も記載して、必ず職員全員が目を通すようにしている。	支援計画書を職員全員で把握・理解し、目標達成に向けて支援を行っている。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	8			日替りでリーダーが活動内容を考えるが、みんなで話し合って詳細を決めている。	日替りでリーダーが考えるが、活動の目的を考え、みんなで話し合って最終的に決めている。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8			・前後や前の週の活動内容との関係を考えて活動プログラムを作成。 ・同じ活動でも内容を工夫してマンネリ化を防いでいる。	活動内容がマンネリ化しないように、児童たちが楽しめることを考えて工夫している。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8			集団活動の中に、個別活動も取り入れている。	個別・集団どちらの利用でも、両方の活動・支援ができるように計画書を作成している。
17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8			朝の送迎前に打合せをして、活動内容の確認と役割分担を決めている。	グループの場合は必ず開始前に打合せをしている。個別の場合も、他のスタッフと内容の相談をしている。	

2023年度(令和5年度)ああるレインボーDuo谷塚駅前教室

【児童発達支援】事業所における自己評価結果(公表)

	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8			送迎後にその日の振り返りをして、記録にも残している。	送迎後・支援終了後に振り返りを行い、改善点などを話し合い共有できるようにノートに記入している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8			・毎日記録を作成している。 ・次の人が分かりやすいように記録を作成することを意識している。	毎回支援記録を必ず作成している。支援の仕方・内容に対する反応などを記録し、継続的な支援に役立てている。	
	20	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8			定期的なモニタリングで、支援計画の内容の見直しに役立っている。	適宜モニタリングを行い、ニーズや支援計画に相違がないか確認している。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		1		担当しているスタッフにも聞き取りをした上で、児童発達支援管理責任者が参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8					
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている						現在、該当者なし
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている						現在、該当者なし
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8				・園の様子を見学に行ったり、園の先生に来ていただいて様子の共有をしている。直接行き来が出来ない場合は電話で情報を共有している。	園との情報共有は、個々の課題・ニーズが見えて、Duoの活動のヒントになるので、全ての関係機関とできるように目指していきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8				要望があった時には行っている。	学校からの要望があった場合は、情報共有を行う。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7		1			支援センターの療育を見学し、先生方の話を聞いたり連携のお願いをしている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5		3		地域の公園で一緒になったときに、挨拶など交流することがある。	地域の公園で一緒になったときに、挨拶などの交流はある。 現在は交流目的の機会はない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加している	2		6		草加市協議会の全体会に参加している。	現在は草加市連絡協議会に参加。2024年度にこども部会が創立される予定。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8				・送迎時にその日の様子をお伝えしている。 ・保護者との振り返りの時間が、次回への療育へと繋がっている。	連絡帳のやり取り・送迎時の報告で、保護者様とは日頃から児童の様子を共有し、今後の課題についても適宜話をして共通理解で取り組めるようにしている。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6		2			講座のように行っていないが、保護者様より相談があった時や面談時にお話している。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8					契約時に重要事項説明書に沿って説明を行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8					支援計画を作成し、児童発達支援管理責任者より直接保護者様に支援目標と支援内容を説明し、同意を得ている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8					半年ごとに支援計画の更新面談時や、その他にも必要な時には電話や事業所にて面談を行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2		6		午前グループで、親子参加の日に複数重なる場合に話題を共有することがある。	現在、保護者会を開催していない。今後、要望があれば開催を検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8					ご相談のご要望があった場合は、なるべく早く日程を調整し、お話が伺えるようにしている。

2023年度(令和5年度)ああるレインボーDuo谷塚駅前教室

【児童発達支援】事業所における自己評価結果(公表)

非常時等の対応	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8			毎月お便りを発行している。	毎月お便りを発行している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8				契約時に個人情報の取り扱いについては説明をして同意をいただいている。情報の共有が必要な時は十分注意して扱っている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8				言葉だけに限らず、児童に合わせたコミュニケーションで意思の疎通を図っている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2		6		現在は地域の方を招待する行事を行っていない。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7		1		職員だけでなく、保護者様にもマニュアルの周知ができるように改善していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		1	毎月避難訓練を実施。地震・火災・水害の訓練を順番に実施している。	毎月、地震・火事・水害に対する避難訓練をローテーションで行っている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8				契約時に確認している。
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8			給食ではないので、食事提供はないが、契約時アレルギーの有無を確認している。	契約時にアレルギーの有無を確認している。お弁当持参なので医師の指示書を預かっている方はいないが、アレルギーが有る方は適時保護者様に事前に確認をしている。	
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8				毎月の会議で共有している。その日のうちに振り返りでも共有している。	その日のうちに共有と、毎月の会議で共有している
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8				年に1回研修を実施。全員研修後には報告書を提出し、虐待防止について確認している。	毎年職員研修を行い、研修後にはレポートを提出し虐待防止に努めている。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6		2			現在、身体拘束が必要な児童がいないので保護者の同意書はもらっていないが、身体拘束についても毎年研修を行っている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。